

- 2) 脇山茂樹, 矢永勝彦, 肝臓 食道・胃静脈瘤手術. 桑野博行¹⁾²⁾(² 福岡市民病院) 監修, 調 憲¹⁾(¹ 群馬大) 編. 5年でマスター消化器標準手術: 消化器外科専門医への道. 改訂第2版. 東京: メジカルビュー社, 2018. p.309-17.
- 3) 塩崎弘憲, 矢永勝彦. I章: 消化器疾患の主な治療法 2. 輸血療法. 小池和彦¹⁾, 山本博徳(自治医科大), 瀬戸泰之¹⁾(¹ 東京大) 編. 消化器疾患最新の治療 2019-2020. 東京: 南江堂, 2019. p.47-9.

V. その他

- 1) Onda S, Shiba H, Takano Y, Furukawa K, Hata T, Yanaga K. Renal infarction during anticoagulant therapy after living donor liver transplantation. *Case Rep Gastroenterol* 2018; 12(1): 504-12.
- 2) Kumagai Y, Fujioka S, Misawa T, Kitamura H, Suzuki M, Yanaga K. Laparoscopic treatment of a solitary fibrous tumor originating in the cystic plate. *Surg Case Rep* 2018; 4(1): 150.
- 3) Abe K, Shiba H, Shimada J, Onda S, Sakamoto T, Yanaga K. Laparoscopic fenestration for a huge symptomatic splenic cyst in a patient with Gaucher's disease. *Clin J Gastroenterol* 2018; 11(3): 217-9.
- 4) Yasuda J, Onda S, Shiozaki H, Shiba H, Yanaga K. A successfully treated case of intrahepatic cholangiocarcinoma with exacerbation of dermatomyositis. *Case Rep Gastroenterol* 2018; 12(3): 622-8.
- 5) Taniat T, Haruki K, Shiba H, Onda S, Sakamoto T, Yanaga K. Simultaneous resection for synchronous double primary cancers of the pancreas and the liver. *Case Rep Gastroenterol* 2018; 12(2): 504-12.

呼吸器外科, 乳腺・内分泌外科

講座担当教授:	大塚 崇	呼吸器外科
教 授:	秋葉 直志	呼吸器外科
教 授:	武山 浩	乳腺・内分泌外科
教 授:	木下 智樹	乳腺・内分泌外科
教 授:	鳥海弥寿雄	乳腺・内分泌外科
准 教 授:	佐藤 修二	呼吸器外科
准 教 授:	川瀬 和美	乳腺・内分泌外科
准 教 授:	田部井 功	乳腺・内分泌外科
准 教 授:	尾高 真	呼吸器外科
准 教 授:	野木 裕子	乳腺・内分泌外科

教育・研究概要

I. 呼吸器外科

呼吸器外科, 胸部外科における臨床研究, 基礎研究を進めている。日常診療に即した臨床研究, 将来的に実現可能な基礎研究を念頭に置いている。

1. 肺手術後肺機能の推移の研究

肺切除後の肺機能の推移の研究を行っている。日本の高齢者社会では高齢患者も増加している。年齢による肺機能の術後の回復に差があるのか, また切除肺におけるメタロプロテアーゼの発現と肺機能の回復に関連があるのか。術式, 部位別, その他臨床病理学的検討を行っている。

2. 少数転移を脳または副腎に持つ非小細胞肺癌に対する肺切除の安全性と有効性評価のための後ろ向き研究

遠隔転移を有する非小細胞肺癌に対する手術は, 手術適応外とされてきた。しかし近年, 少数の転移を脳または副腎に持つ非小細胞肺癌に対する遠隔転移巣と肺切除を含む局所療法により, 長期生存を得られる症例の報告が見られている。術前治療内容, 耐術能, 周術期治療成績, 長期治療成績についてのデータを収集し, 少数の遠隔転移を有する肺癌に対する肺切除の第Ⅱ相試験の実行可能性を検討する。

3. 自然気胸胸腔鏡下手術でのポリグリコール酸シートと胸膜擦過の再発防止の意義に関する研究

自然気胸に対する手術は自動縫合器による胸腔鏡下ブラ切除術が主流である。しかし胸腔鏡下ブラ切除術の術後再発率は10~20%と報告されていて, 必ずしも低くない。その原因は自動縫合器による切除断端近傍に発生する新生ブラの破裂によると考えられる。自然気胸術後の再発予防のため, 本邦では主にポリグリコール酸シートによる臓側胸膜補強,

北米では主に壁側胸膜擦過による壁側胸膜補強が行われている。前者は臓側胸膜補強によりブラの新生および自然気胸の再発を予防するという考え、また後者は壁側胸膜と臓側胸膜との癒着によるという考えに基づいている。しかしそれぞれの方法の優劣は明らかにされていない。自然気胸手術の際に、ブラ切除後にポリグリコール酸シートの使用または壁側胸膜の擦過、の2手法をランダム化し附属病院においてオール慈恵で研究を行う。

4. 基礎研究

1) 肺移植後拒絶反応の研究

肺移植は重症呼吸不全疾患に対する唯一の根本的治療であり、今後日本での一層の普及が期待されている。移植肺機能不全は肺移植患者の約20%に発症する重篤な急性期合併症であるのみならず長期予後の規定因子となるBronchiolitis obliteransとの関連も報告されている。多くの治療法が研究されてきたものの有効性は示されておらず、ブレークスルーが求められている。共同開発した高分子化合物である人工ガス運搬体を一酸化炭素のキャリアーとしてレシピエントに投与することにより、安全な方法で肺移植後拒絶反応の抑制が可能を検討している。

2) 肺癌における標的抗原の同定と微小環境の解析

肺癌での患者毎の標的抗原とがん微小環境を明らかにし、それに基づいた最適な複合的免疫療法を開発することを本研究の目的とする。切除標本を用いて腫瘍特異的な遺伝子変異に由来する変異ペプチドの中から、MHCクラスI/II結合予測法を用いて、高親和性MHCクラスI/IIエピトープを選出しネオアンチゲンの候補の同定を行う

II. 乳腺・内分泌外科

1. オリゴメタスタシス (Oligometastases breast cancer: OMBC, 少数転移性乳癌) に対する治療戦略の構築

乳癌の転移・再発例の中には、多臓器に多発する形態をとらず、少数個の遠隔転移巣で比較的緩徐な経過をとるものがある。この限局性・少数転移に対して、化学療法以外に局所治療(手術、放射線療法)などを組み合わせることで、長期生存または治癒が得られる場合がある。これらのOMBCに対し、腫瘍・血液内科と共同で、治療戦略を構築し、集学的治療の意義と予後予測因子探索の前向き観察研究を行っている。

2. センチネルリンパ節転移陽性乳癌における腋窩リンパ節郭清省略に対する観察研究

これまでセンチネルリンパ節生検し転移陽性だった場合、腋窩郭清を行ってきたが、一定の条件を満たせば腋窩郭清を省略しても予後を悪化させる可能性は少ない。現在、腫瘍径、リンパ節転移巣の大きさ・個数、術後補助療法(放射線、薬物)などを基に、非郭清群の対象症例の経過を追い観察研究を行っている。

3. 乳腺腫瘍に対する凍結療法

癌に対する凍結療法は欧米では、すでに多くの臨床実績があり、腎癌、肝癌、肺癌、子宮筋腫、骨腫瘍などで臨床応用が進んでいる。乳癌への凍結療法は柏病院で6例臨床研究として行われ、良好な結果が得られた。

癌の根治性と術後乳房の整容性を両立した「究極の切らない乳癌治療」の実現を目指し、倫理委員会へ治験審査申請を行い承認され、附属病院でも本年度2症例に対して施行した。

4. Stage IV乳癌に対する原発巣切除の意義に関する研究

遠隔転移のある乳癌の予後は不良であるが、治療法の進歩により生存期間も延長している。現在のガイドラインでは、原発巣切除は、局所コントロールが患者のQOLの維持に役立つ症例を選択しているが、最近のメタアナリシスでは遠隔転移があっても原発巣を外科的切除した症例において良好な結果が得られている。前述のOMBCに対する治療戦略と関連して、症例を選択し検討している。

5. 乳がん幹細胞 (Breast cancer stem cells: BCSC) マーカーの転移予測因子としての活用意義

CD44(+), CD24(-/low)の乳がん細胞は、治療抵抗性のBCSCとして認識されている。原発巣内におけるCD44(+), CD24(-/low)が転移・再発の予測因子としての活用可能かどうかを実際の手術検体で検討する。

6. デノスマブによる骨量減少抑制のランダム化比較試験

閉経後ホルモン感受性乳癌に対し術後内分泌療法としてアロマターゼ阻害薬内服を予定している症例に、デノスマブを併用しアロマターゼ阻害薬による骨量減少の予防効果を評価する臨床研究が、乳がん学会班研究で行われており、当施設も参加する。

7. 妊孕性温存の介入に関する取り組み

生殖可能な年齢の乳がん患者は増加傾向にあり、今後も需要が増えることが予測される。妊孕性を維

持するための当院での取り組みを検討し、より良いシステム化に向け現状を把握、検討する。

8. 術前化学療法後 (Neo adjuvant chemotherapy: NAC) の再建の安全性の検討

NACは創傷治癒の遅延や創感染の増加を懸念させるため、これまでは「細心の注意のもと行ってもよい」とされてきたが、未だに禁忌とする施設もある。しかし乳房全摘術後、同時再建を希望される症例は増加傾向にあり、当科でのNAC後、全摘、再建を行った症例に対し術後合併症発症率、治療計画への影響などを検討した。

9. 基礎研究

1) ヒト乳癌における DYRK2 の細胞増殖制御の研究

DYRK2は細胞周期を制御しており、進行癌ではDYRK2が低下すると、細胞増殖が活発化し、進展・浸潤することが知られている。ヒト乳癌組織では、浸潤性乳癌では乳管内癌と比べDYRK2の発現が低下しており、進展・浸潤への関与が示唆される。In vivoでもDYRK2の発現低下癌細胞をマウスに移植すると、造腫瘍能の増強がみられる。

DYRK2の下流遺伝子をマイクロアレイなどにより網羅的に探索することで、癌の進展・浸潤に関する分子機構を解明し、新規治療戦略への応用を検討する。

2) 甲状腺癌における血清診断に関する研究

当科で作成した甲状腺乳頭癌に対するモノクローナル抗体JT-95を使用して血液、尿中のJT-95の抗原物質の量を測定し、腫瘍マーカーとしての可能性を当大学分子細胞生物部と共同で研究している。

3) 甲状腺癌転移に関する研究

甲状腺乳頭癌ではリンパ節転移が多く、濾胞癌では血行性転移が多いことが知られている。「乳頭癌の遠隔転移には乳頭癌細胞とリンパ球との接着が関与している」という仮説を立て、前述のJT-95を使用して、その関連を検討している。

4) 分化型甲状腺癌を対象としたレンバチニブの治療効果探索のためのコホート研究

乳頭癌などの分化型甲状腺癌は予後良好なことが多いが、リンパ節転移や血行性転移により根治切除不能な症例もあり、新たな治療法が必要とされている。新規分子標的薬レンバチニブが分化型甲状腺癌に使用できるようになり、当科ではレンバチニブの安全性、治療効果、予後に関して、多施設共同研究に参加するため大学倫理委員会へ治験審査申請し承認された。

「点検・評価」

1. 呼吸器外科

臨床研究、基礎研究ともに適切な委員会を経由して、実行している。得られる成果を学会、論文発表とする。倫理委員会で承認されている。

2. 乳腺・内分泌外科

1) OMBCに対する治療戦略の構築

OMBCの定義、基本的治療戦略を立てるために、当院での過去の症例を元に腫瘍・血液内科と共同で計画し、転移臓器、転移巣の個数、および大きさなどの基本的な定義を決定し、標準的な治療戦略のある程度の柔軟性を持たせ、決定した。

2) センチネルリンパ節転移陽性乳癌における腋窩郭清省略に対する研究では、対象症例の経過を慎重に追ひ、介入なしの観察研究を行い、論文文化を進めている。

3) 乳腺腫瘍に対する凍結療法

柏病院で行われた治療を、附属病院でも継続すべく大学の倫理委員会へ治験審査申請を行い、承認された。法令の改正により特定臨床研究への新規申請を行っている。

4) Stage IV乳癌に対する原発巣切除の意義に関する研究

OMBCに対する治療戦略の構築と関連して、症例を選択し、観察研究を進めている。

5) 乳がん幹細胞マーカーの転移予測因子としての活用意義

転移・再発を起こした症例の原発巣と転移巣でのCD44(+), CD24(-/low)細胞(BCSC)の発現率を比較したところ、転移巣でこの細胞の発現率が高かった。これまで知られている悪性度の指標としてSubtype分類・臨床病期とCD44(+), CD24(-/low)細胞の発現率には、相関性は認めず、独立したBiomarkerとして乳がんの予後予測因子となりうると思われ、今後症例の蓄積を予定している。

6) デノスマブによる骨量減少抑制のランダム化比較試験

乳がん学会班研究で行われており、特定臨床研究への申請を終え、適応症例の選考中である。

7) 妊孕性温存の介入に関する取り組み

当科では妊孕性温存の希望を問診し、適応症例に対し情報を提供し、生殖内分泌科へのコンサルトをシステム化し2ヶ月に1度会議を開催し、その後の情報共有を行っている。

今後長期の経過を追うとともに、乳がん治療率も検討し、より良いシステム化に向けブラッシュアップを行う。

8) NACの再建の安全性の検討

NAC 後全摘，再建を行った症例でも非再建群と比較して，術後合併症の頻度は変わらず，治療計画への影響もないことを学会発表した。

今後長期予後に関する影響を観察するとともに，症例を蓄積してゆく。

9) 基礎研究

(1) リン酸化酵素 DYRK2 は培養細胞株において CDK14 を介し腫瘍増殖を制御することが，当科および生化学講座との共同で，明らかにされた。今後さらなる分子機構解明と，新規治療法開発への応用を検討していく。

(2) JT-95 を使用した血清診断において，甲状腺乳頭癌では乳癌患者血清と比較して有意差を持って抗原量が多いことが確認されており，現在キット化を進めている。

(3) 甲状腺乳頭癌のリンパ節転移の研究では，乳頭癌細胞とリンパ球の混合培養中に JT-95 を添加すると癌細胞とリンパ球の接着が阻害されることが明らかになった。現在そのメカニズムを引き続き研究中である。

(4) 分化型甲状腺癌を対象としたリンパチニブの治療効果探索のためのコホート研究

根治切除不能あるいは放射性ヨウ素治療抵抗性で進行性の分化型甲状腺乳頭癌患者に投与し，安全性，治療効果，予後に関して多施設共同研究に参加出来るように大学倫理委員会へ治験審査申請し，承認された。現在3例の登録を行い，今後も増える予定である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Akiba T, Morikawa T, Odaka M, Nakada T, Kamiya N, Yamashita M, Yabe M, Inagaki T, Asano H, Mori S, Tsukamoto Y, Urashima M. Vitamin D supplementation and survival of patients with non-small cell lung cancer : a randomized, double-blind, placebo-controlled trial. *Clin Cancer Res* 2018 ; 24(17) : 4089-97.
- 2) Morikawa T. Thoracoscopic surgery in Asia. *J Vis Surg* 2018 ; 4 : 20.
- 3) Odaka M, Noda Y, Tsukamoto Y, Kato D, Shibasaki T, Mori S, Asano H, Matsudaira H, Yamashita M, Morikawa T. Impact of the introduction of thoracoscopic lobectomy for non-small cell lung cancer : a propensity score-matched analysis. *J Thorac Dis* 2018 ; 10(8) : 4985-93.

4) Hirano J, Kinoshita S, Kazama T, Shimada N, Miyake R, Uchida K, Takeyama H. Value of vessel sealing system in skin-sparing mastectomy in patients with early breast cancer. *Clin Surg* 2018 ; 3 : 2055.

5) Mori S, Noda Y, Tsukamoto Y, Shibasaki T, Asano H, Matsudaira H, Yamashita M, Odaka M, Morikawa T. Perioperative outcomes of thoracoscopic lung resection requiring a long operative time. *Interact Cardiovasc Thorac Surg* 2019 ; 28(3) : 380-6.

6) Shibasaki T, Odaka M, Noda Y, Tsukamoto Y, Mori S, Asano H, Yamashita M, Morikawa T. Effect of comorbidities on long-term outcomes after thoracoscopic surgery for stage I non-small cell lung cancer patients with chronic obstructive pulmonary disease. *J Thorac Dis* 2018 ; 10(2) : 909-19.

7) Noda Y, Matsudaira H, Asano H, Odaka M, Yamashita M, Mori S, Shibasaki T, Kato D, Tsukamoto Y, Morikawa T, Ohki T. A novel intra-operative navigation system for resection of small lung nodules by video-assisted thoracoscopic surgery (VATS) using three-dimensional image construction in real time and on site with a tablet computer. *J Vis Surg* 2018 ; 4 : 150.

8) Saito N, Araya J, Ito S, Tsubouchi K, Minagawa S, Hara H, Ito A, Nakano T, Hosaka Y, Ichikawa A, Kadota T, Yoshida M, Fujita Y, Utsumi H, Kurita Y, Kobayashi K, Hashimoto M, Wakui H, Numata T, Kaneko Y, Asano H, Odaka M, Ohtsuka T, Morikawa T, Nakayama K, Kuwano K. Involvement of lamin B1 reduction in accelerated cellular senescence during chronic obstructive pulmonary disease pathogenesis. *J Immunol* 2019 ; 1202(5) : 1428-40.

9) Okami J(Osaka Int Cancer Inst), Shintani Y(Osaka Univ), Okumura M(Natl Hosp Org Toneyama Hosp), Ito H(Kanagawa Cancer Ctr), Ohtsuka T, Toyooka S(Okayama Univ), Mori T(Kumamoto Univ), Watanabe SI(Natl Cancer Ctr Hosp), Date H(Kyoto Univ), Yokoi K(Nagoya Univ), Asamura H(Keio Univ), Nagayasu T(Nagasaki Univ), Miyaoka E(Univ Tokyo), Yoshino I(Chiba Univ) ; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. Demographics, safety and quality, and prognostic information in both the seventh and eighth editions of the TNM classification in 18,973 surgical cases of the Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry Database in 2010. *J Thorac Oncol* 2019 ; 14(2) : 212-22.

10) Nakano S, Imawari Y, Mibu A, Otsuka M¹⁾, Oinuma T¹⁾(¹Kawaguchi Municipal Med Ctr). Differentiating vacuum-assisted breast biopsy from core nee-

dle biopsy : is it necessary? Br J Radiol 2018; 91(1092) : 20180250.

- 11) Imawari Y, Mimoto R, Hirooka S, Morikawa T, Takeyama H, Yoshida K. Downregulation of dual-specificity tyrosine-regulated kinase 2 promotes tumor cell proliferation and invasion by enhancing cyclin-dependent kinase 14 expression in breast cancer. *Cancer Sci* 2018; 109(2) : 363-72.
- 12) Fushimi A, Takeyama H, Manome Y. Effect of heparin-protamine treatment on thyroid cancer cell lines. *Anticancer Res* 2018; 38(12) : 6759-62.
- 13) Fushimi A, Fukushima N, Suzuki T, Kudo R, Takeyama H. Features of Microcalcifications on screening mammography in young women. *Asian Pac J Cancer Prev* 2018; 19(129) : 3591-6.
- 14) 森 彰平, 三石雄大, 野田祐基, 加藤大喜, 仲田健男, 大塚 崇. 術前組織診断が小細胞癌であった類基底細胞型扁平上皮癌の1切除例. *肺癌* 2019; 59(1) : 76-81.
- 15) 浅野久敏, 尾高 真, 塚本 遥, 柴崎隆正, 森 彰平, 山下 誠, 森川利昭. 頭頸部癌肺転移に対する胸腔鏡手術の治療成績. *肺癌* 2018; 58(2) : 83-7.
- 16) 高橋伸政¹⁾, 澤端章好(奈良県立医科大), 松谷哲行²⁾, 川村雅文²⁾(² 帝京大), 大塚 崇(慶應義塾大), 堀尾裕俊(都立駒込病院), 坂口浩三³⁾, 金子公一³⁾, 中山光男³⁾(³ 埼玉医科大), 吉谷克雄(新潟県立がんセンター新潟病院), 千田雅之(獨協医科大), 星 永進¹⁾(¹ 埼玉県立循環器・呼吸器病センター). 臨床病期I期肺癌における至適縮小手術の検討 断端距離/腫瘍径比, 断端細胞診の意義(KLSG0801 副次解析). *日呼外会誌* 2018; 32(4) : 450-7.
- 17) 志満敏行¹⁾, 政井恭兵¹⁾, 菱田智之¹⁾, 加勢田馨¹⁾, 橋本浩平¹⁾, 高橋祐介¹⁾, 大塚 崇¹⁾, 浅村尚生¹⁾(¹ 慶應義塾大). 【肺癌の集学的治療の現況】手術と集学的治療非小細胞肺癌の集学的治療における外科療法役割. *胸部外科* 2018; 71(4) : 244-8.
- 18) 濱田賢一¹⁾, 加勢田馨¹⁾, 大村征司¹⁾, 鈴木幹人¹⁾, 田中浩登¹⁾, 鈴木陽太¹⁾, 栗山翔司¹⁾, 坂巻寛之¹⁾, 志満敏行¹⁾, 四倉正也¹⁾, 政井恭兵¹⁾, 橋本浩平¹⁾, 高橋祐介¹⁾, 菱田智之¹⁾, 大塚 崇¹⁾, 林雄一郎¹⁾, 中谷行雄(千葉大), 浅村尚生¹⁾(¹ 慶應義塾大). 胸腺原発脂肪線維線腫の1切除例. *肺癌* 2018; 58(3) : 237-8.
- 19) 川瀬和美, 前田耕太郎¹⁾, 岩瀬弘敬¹⁾, 野村幸世¹⁾, 小川朋子¹⁾, 柴崎郁子¹⁾, 島田光生¹⁾, 田口智章¹⁾, 竹下恵美子¹⁾, 富澤康子¹⁾, 花崎和弘¹⁾, 葉梨智子¹⁾, 山下啓子¹⁾, 中村清吾¹⁾(¹ 日本外科学会男女共同参画委員会), 富永隆治(日本外科学会外科医労働環境改善委員会). 外科医の働き方改革 現状と改善方策

外科医の意識と働き方改革 外科における男女共同参画はどうあるべきか? *日外会誌* 2018; 119(6) : 705-8.

Ⅲ. 学会発表

- 1) 大塚 崇¹⁾, 重信敬夫¹⁾, 政井恭兵¹⁾, 加勢田馨¹⁾, 橋本浩平¹⁾, 高橋祐介¹⁾, 菱田智之¹⁾, 浅村尚生¹⁾(¹ 慶應義塾大). (口頭)重症筋無力症合併胸腺腫切除例の術後重症筋無力症増悪因子の検討. 第118回日本外科学会定期学術集会. 東京, 4月.
- 2) 秋葉直志, 森川利昭, 尾高 真, 仲田健男, 神谷紀輝, 山下 誠, 矢部三男, 稲垣卓也, 浅野久敏, 森 彰平, 塚本 遥, 浦島充佳. (口頭)ビタミンDサプリメントと非小細胞肺癌患者の生存: 無作為二重盲検, プラシーボ対象試験. 第59回日本肺癌学会学術集会. 東京, 11月.
- 3) 森川利昭. (口頭)胸腔鏡手術のアプローチにおける理想と現実. 7th Reduced Port Surgery Forum. 札幌, 8月.
- 4) 佐藤修二, 稲垣卓也, 宮川英恵, 齋藤桂介, 矢部三男, 秋葉直志, 森川利昭. (ポスター)局所麻酔下胸腔鏡の有用性と安全性に関する検討. 第41回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 東京, 5月.
- 5) 浅野久敏, 野田祐基, 加藤大喜, 森 彰平, 松平秀樹, 尾高 真, 大木隆生. (口頭)当科で施行した50歳未満の気胸術後再発症例の検討. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会. 千葉, 5月.
- 6) 仲田健男, 矢部三男, 秋葉直志. (ポスター)85歳以上の呼吸器外科手術症例の検討. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会. 千葉, 5月.
- 7) 加藤大喜, 浅野久敏, 野田祐基, 森 彰平, 仲田健男, 松平秀樹, 大塚 崇. (口頭)非接触で操作できるタブレット型パソコンを用いたシミュレーション機器の導入. 第31回日本内視鏡外科学会総会. 福岡, 12月.
- 8) 野田祐基, 浅野久敏, 塚本 遥, 柴崎隆正, 森 彰平, 山下 誠, 尾高 真, 森川利昭. (ポスター)胸腺原発のIgG4関連疾患の1切除例. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会. 千葉, 5月.
- 9) 荒川智嗣, 野田祐基, 松平秀樹, 石川あい, 福島尚子, 小川匡市, 大木隆生. (ポスター)肺癌術前の診断目的に施行したPET-CTで偶発的に認められた潜在性腫瘍に関する評価. 第77回日本癌学会学術総会. 大阪, 9月.
- 10) 重盛林太郎, 仲田健男, 矢部三男, 秋葉直志, 大塚 崇. (デジタルポスター)両側気胸に対し日挿管両側局所麻酔下気管閉鎖術を施行した1例. 第31回日本内視鏡外科学会総会. 福岡, 12月.
- 11) 塩谷尚志, 野木裕子, 加藤久美子, 神尾麻紀子, 井廻良美, 野坂涼子, 伏見 淳, 工藤 麗, 風間高志,

- 鳥海弥寿雄, 永崎栄次郎, 小林 直, 柵山年和, 木下智樹, 内田 賢, 武山 浩. (ポスター) ベグフィルグラスチムを用いても発熱性好中球減少症 (FN) を回避できなかった 1 例. 第 26 回日本乳癌学会学術総会. 京都, 5 月.
- 12) 川瀬和美, 中村清吾 (昭和大), 野木裕子, 神尾麻紀子, 武山 浩, 大木隆生. (特別企画 7 : 女性外会のキャリアパス) 女性外科医の妊娠・出産とキャリア. 第 118 回日本外科学会定期学術集会. 東京, 4 月.
- 13) 野木裕子, 風間高志, 三本 麗, 井廻良美, 塩谷尚志, 鳥海弥寿雄, 木下智樹, 武山 浩, 大木隆生. (ワークショップ 14 : 術前化学療法で乳癌治療は変わるか?) 乳癌術前化学療法後一次再建は予後へ影響を及ぼさない. 第 118 回日本外科学会定期学術集会. 東京, 4 月.
- 14) 田部井功, 小山能徹, 浮池 梓, 伏見 淳, 田中 星, 神尾麻紀子, 川瀬和美, 岡本友好, 木下智樹, 鳥海弥寿雄, 武山 浩, 森川利昭. (ポスター) 骨折を契機に診断, 予後不良だった PTHrP 産生乳癌の 2 症例. 第 26 回日本乳癌学会学術総会. 京都, 5 月.
- 15) 三宅 亮, 鳥田直子, 神尾麻紀子, 木下智樹, 武山浩. (ポスター) 非切除で治療した潜在性乳癌の 2 例. 第 26 回日本乳癌学会学術総会. 京都, 5 月.
- 16) 神尾麻紀子, 野木裕子, 武山 浩, 秋葉直志, 大木隆生. (ポスター) 非浸潤性乳管癌の治療戦略 臨床病理学的因子と予後の検討. 第 118 回日本外科学会定期学術集会. 東京, 4 月.
- 17) 井廻良美, 三本 麗, 風間高志, 野木裕子, 塩谷尚志, 木下智樹, 鳥海弥寿雄, 内田 賢, 武山 浩. (ポスター) 乳癌において DYRK2 は CDK14 を介して腫瘍増殖を制御する. 第 26 回日本乳癌学会学術総会. 京都, 5 月.
- 18) Mimoto R, Fushimi A, Nogi H, Takeyama H. (e-Poster) Conditional reprogramming cells are novel tools for drug response assay and the development of personalized medicine in Luminal-B breast cancer. American College of Surgeons (ACS) Clinical Congress 2018. Boston, Oct.
- 19) 鳥田直子, 三宅 亮, 神尾麻紀子, 木下智樹, 武山浩. (ポスター) 診断・治療に難渋した豊胸手術後に発症した乳腺扁平上皮癌の 1 例. 第 26 回日本乳癌学会学術総会. 京都, 5 月.
- 20) Ishigaki T, Uruno T, Tanaka T, Ogimi Y, Masaki C, Akaishi J, Hames K, Yabuta T, Suzuki A, Tomoda C, Matsuzaki K, Ohkuwa K, Kitagawa W, Nagahama M, Sugino K, Ito K. (Oral) Usefulness of stereotactic radiotherapy using CyberKnife for patients with inoperable locoregional recurrences of differentiated thyroid cancer. 29th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (APEC). Hanoi, Mar.

IV. 著 書

- 1) 大塚 崇 (作成委員). 日本肺癌学会編. 肺癌診療ガイドライン 2018 年版: 悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む. 第 5 版. 東京: 金原出版, 2018.
- 2) 仲田健男. IV. 基本の手技 胸腔ドレーン挿入のコツ. 大村和弘, 川村哲也, 武田 聡編. 専門医が教える研修医のための診療基本手技. 東京: 医学書院, 2018. p.208-12.

V. その他

- 1) 松平秀樹, 石川あい, 荒川智嗣, 野田祐基, 佐藤修二, 平野 純, 小川匡市, 森川利昭. 肩甲骨下部に発生した弾性線維腫の 1 例. 胸部外科 2018 ; 71(9) : 716-9.
- 2) Nakada T, Takahashi K, Ito E, Fukushima S, Yamamoto S, Takahashi N, Toya N, Akiba T, Morikawa T, Ohki T. A case of bronchial artery aneurysm with an esophageal fistula as an extremely rare complication after bronchial arterial embolization. J Thorac Dis 2018 ; 10(6) : E476-80.
- 3) Nakada T, Tsukamoto Y, Yabe M, Misawa T, Akiba T, Ohtsuka T. Right upper lobe torsion after right lower lobectomy: a rare and potentially life-threatening complication. Case Rep Pulmonol 2018 ; 2018: 2146458.
- 4) 稲垣卓也, 二川康郎, 佐藤修二, 岡本友好, 矢部三男, 松平秀樹, 平野 純, 森川利昭. 悪性腫瘍との鑑別を要した肺クリプトコッカス症の 1 例. 胸部外科 2018 ; 71(7) : 556-9.
- 5) 浅野久敏, 野田祐基, 加藤大喜, 森 彰平, 松平秀樹, 大塚 崇. ミュラー管嚢胞の 1 切除例. 日呼外会誌 2019 ; 33(2) : 72-6.